

# 2023年度 事業報告書

自 2023年4月1日

至 2024年3月31日

## 2023年度5つのトピクス

1. DEAR 40周年記念募金「未来につなぐ開発教育」でいただいた寄付金を、これから開発教育を進める方に、教材やワークショップの形でプレゼントを贈りました。プレゼント応募は、延べ75件あり、67名の方々にプレゼントをお届けし、寄付者とプレゼントを受け取った方々の交流会も開催しました。
2. 教材『教育をジェンダー視点で見直すヒント集』作成のための費用をクラウドファンディングで募りました。194名の方から196件、1,058,639円のご協力をいただき、教材も無事に発行できました。
3. 「ファッション・服：開発教育アクティビティ集5」（2021年発行）が2023年消費者教育教材資料表彰「消費者庁長官賞」を受賞しました。教育に求められている学びのスタイルやテーマ、情報も新しく、授業を実施するうえでのアイデアも豊富で実践しやすいと高く評価されました。
4. おとなのアクティブ・シティズンシップについて意識化し、これを推進していくため、「ALE（成人学習・教育）と開発教育：関西会議の開催」を2024年1月に関西セミナーハウス（京都）で開催し、開発教育や成人教育に関わる関西の方々と経験交流を行いました。
5. d-lab2023（第41回開発教育全国研究集会）は、4年ぶりに対面で開催し、計223名が参加しました。全体会は「子どもの権利から考える、自分と社会への問い」をテーマに、活発な議論が行われました。



認定NPO法人 開発教育協会 (DEAR)

## もくじ

### 事業の概要

1. はじめに～2023 年度をふりかえって 2
2. 各種事業報告
  - I. ネットワーク事業 3
  - II. 実践・研究事業 5
  - III. 情報・出版事業 6
  - IV. 人材育成事業 8
  - V. 政策提言事業 10
  - VI. その他の事業 11
3. 組織運営に関する報告
  - 1) 会報「DEAR ニュース」の編集・発行 12
  - 2) サポーターの募集 12
  - 3) 40 周年記念募金 プレゼント送付 12
  - 4) クラウドファンディングの実施 12
  - 5) 会員交流会の実施 12

### 処務の概要

1. 会員に関する事項 13
2. 役員等に関する事項 13
3. 会員総会に関する事項 14
4. 理事会に関する事項 14
5. 評議員会に関する事項 14
6. 2023 年度事業評価・2024 年度計画会議 14
7. 各種委員会に関する事項 15
8. プロジェクト・チームに関する事項 15
9. 職員に関する事項 16
10. インターン・ボランティアに関する事項 16
11. 会員団体に関する事項 16

### 資料編

- 資料 1. メディア掲載・取材協力など 17
- 資料 2. 名義後援・協力の実績一覧 18
- 資料 3. 他団体への賛同・協賛の実績一覧 18
- 資料 4. 講師派遣の実績一覧 19



クラウドファンディングを行い、「教育をジェンダー視点で見直すヒント集」発行！



d-lab2023 は 4 年ぶりの対面開催！



40 周年金募金 プレゼント送付 & 交流会を実施



「ALE・開発教育 関西会議」を開催！

### 1. はじめに—2023年度をふりかえって

#### 社会の大きな動きの中で

2023年は、世界的に観測史上最も暑い年であったといわれました。暑いだけでなく、国内外で異常気象や自然災害が頻発しました。日本はこの50年間で多くの資源を消費し、気候変動に大きな責任を持っています。しかし、日本の気候変動対策や人々の問題意識は十分とは言えず、深刻な被害は、途上国や立場が弱い人々に集中しています。

世界を見ると、各地で紛争や対立が激化しています。たとえば、ウクライナやパレスチナにおける攻撃には、世界中で非難の声が挙がっているにもかかわらず、国際社会が止められない状況になっています。一方で、国内外で市民による連帯の意識は高まっています。

多くの地球的課題を、その背景や構造、歴史をきちんと捉えて、他者と共に学び、より公正な社会づくりに参加していくことを、開発教育は重視しています。

国内においても貧困や経済格差、教育や生活、医療や福祉の保障は大きな課題になっています。また、移民や難民として来日する外国籍の人々への人権侵害も深刻です。

これまで通りに経済や効率を優先し、環境や資源、労働力の搾取や、競争を強化し格差が拡大する社会ではなく、人権が尊重され、多様性が保障され、資源の公正な分配と対話を通して支えあう、持続可能な社会づくりが求められています。

さらに、子どもたちだけでなく、私たち大人自身も主体的な学習者であり続けられるように、教育を捉えなおしていく必要があります。

今年度は、「中期方針・重点事業」に基づき、各種事業を実施しました。昨年度に引き続き、COVID-19感染拡大防止のために、職員は在宅勤務を中心にしながらも、徐々に、対面での事業も始め、講師派遣や d-lab、教材体験フェスタなどは、対面で実施しました。

#### 中期計画の実施報告

2023年度は、「2022-26年度 中期重点方針・中期重点事業」2年目の年となりました。

#### <2022-2026 中期重点方針>

**方針1. 開発課題をわたしたちの課題として捉え考える  
市民性・公共性の追求**

**方針2. 教育者中心から学習者中心の教育へ教育観の  
転換に向かう**

#### <2022-2026 中期重点事業>

1. 開発課題（ジェンダー・貧困など）と開発教育に関する研究会の実施
2. 成人教育、社会教育としての開発教育の推進
3. 開発教育ファシリテーション（対話）の再考・議論の促進
4. 教育政策に関する調査・ネットワークづくり
5. 組織基盤強化

重点事業1では、「開発」の意味や望ましいあり方を問い、多様で複雑な「開発」課題を認識し、それらの理解を深めることや、課題達成に向けた行動を促していくために、「市民性」や「公共性」に関する議論を広く提案していくことを目指しました。

SDGs研究会では、「DEAR カレッジ」において、開発課題をテーマとして学ぶのではなく、自らの課題として捉え、様々な意見の人と、「市民性」や「公共性」の視点で対話をする場の設定を試みました。

ジェンダー研究会では、教育のあらゆる側面についてジェンダー視点で見直すことをめざし、ヒント集の作成に取り組みました。

重点事業2では、成人教育・社会教育の観点を持った開発教育活動の実践のあり方を広く共有することや、大人が学び続けられる環境づくりや教育保障と、人々が市民的な力を得ることで社会が変容していくような教育の議論・提案をし、地域における実践共有や、政策提案をするネットワークを構築することを目指しました。

ALE プロジェクトでは、全国の成人教育・社会教育の好事例を収集し、意見交換を行ったうえで、『おとな

の『アクティブ・シティズンシップハンドブック』を作成しました。

**重点事業3**では、参加体験型の学習・教育方法の普及推進にとどまるのではなく、管理・伝達・誘導型の教育観を問い直し、学習観を持つことや、子ども若者と大人の主体的な学習のあり方と、それを支える教育や学校のあり方や役割を、広く議論し共有していくことを目指しました。

開発教育ファシリテーション講座では、過去3回の「ファシリテーション講座」を振り返り、「開発教育ファシリテーション9つの要素」を作成し、d-lab 分科会でも議論しました。

**重点事業4**では、開発教育実践者や市民組織と協力して、国内の教育政策への提案を行うことや、全国の開発教育実践者が開発教育やESDを実施しやすい環境をつくるために、政府や自治体行政との対話の場を広げることを目指しました。

とくに、「開発協力大綱」や、「SDGs実施指針」などに関して、他団体や市民社会ネットワークとも協力し、積極的に政策提言活動を行い、一部文言の反映などにもつながりました。

**重点事業5**では、財政基盤を安定させ、広く信頼を得て、自立した組織になるために、経営計画をたて、ファンドレイジングに力を入れると共に、事務局や理事会の役割の整理、職員の能力強化などを行うことを目指しました。

昨年度の40周年記念募金の基金を活用し、これから開発教育を進めたい方々に教材や講師派遣をプレゼントする企画を行い、新しい担い手にアプローチしました。そのほか、新しい財源確保のための協議を進めることができました。

一方で、残された課題もあります。開発教育とは何か、グローバル・シティズンシップとはどういうものなのか、全国の実践を開発教育やグローバル・シティズンシップの視点で振り返るためにはどのような仕組みが必要か、などについて、会員とともに、議論を進める必要があります。

また、昨年度から続く赤字決算を克服すること、財

政基盤安定化のために協力者を拡大していくことの重要性が共有されました。

## 参加を重視した事業運営

年度当初に計画した6つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 人材育成事業」「Ⅴ. 政策提言事業」「Ⅵ. その他の事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。

参加を重視するという点では、ウェブにも掲載している『みんなの参加』のためのDEARの取組にもあるように、あらゆる人々が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。

具体的には、講座やセミナーにおいて難聴者のための要約筆記や視覚障害を持つ会員には、会報や機関誌のテキストを毎回データで送付しています。このような取組を広く伝え、他団体へも伝えていきたいと思っています。

なお、各事業にかかわった委員会やタスクチームのメンバーについては、15～16頁をご覧ください。



d-lab2023 実行委員・ボランティアのみなさん

## 2. 各種事業報告

### Ⅰ. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育およびESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、昨年度に引き続きオンラインでプログラムを実施し、第7回ユネス

ユネスコ国際成人教育会議のフォローアップ会合に参加したほか、担い手との連携・強化を図った。

## 1) 国内ネットワーク事業

### ① 地域ネットワーク会議

2021年度、2022年度とオンラインで開催したが、今年度は、ALEプロジェクトの関西会議において関西地域の方々との情報共有をすすめた。次年度以降、開催を予定している。

### ② 成人学習・教育(ALE)プロジェクト

2022年6月開催の第7回ユネスコ国際成人教育会議(CONFINTEAⅦ)の成果文書を受けて、文科省との政策対話(詳細は「政策提言事業」参照)や、成果文書で強調されているアクティブ・シティズンシップの国内および地域や市民活動での推進のため、以下の活動をおこなった。 ※助成:地球環境基金

#### <CONFINTEAⅦアジア地域フォローアップ会合への参加>

ユネスコ主催のCONFINTEAⅦのアジア地域でのフォローアップ会合が2023年5月30日にオンラインにて開催。アジア地域の省庁、大学、市民社会、教育機関から100名以上の参加者が集まり、成果文書である、マラケシュ行動枠組み(MFA)の公約の実現を支援するための地域・国レベルでの実現可能な行動を決定した。事前に、文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課との意見交換の場を設定し、文科省からは、大臣官房審議官(総合教育政策局担当)と課長補佐の参加を得ることができた。

#### <概要>

- ・ 「第7回国際成人教育会議(CONFINTEAⅦ)アジア地域フォローアップ会合」
- ・ 日時:2023年5月30日
- ・ 会場:オンライン
- ・ 参加者:大安喜一、近藤牧子、小荒井理恵、中村絵乃、伊藤容子(以上、ALEプロジェクトチーム)

#### <ALEと開発教育:関西会議の開催>

アクティブ・シティズンシップについて意識化し、これを推進していくため、作成中のハンドブックに掲載のアクティビティを実践する形で、「持続可能な地域をつくる 成人学習・教育(ALE)と開発教育:関西会議」を実施した。

#### <概要>

- ・ 日時:2024年1月13日-14日
- ・ 会場:関西セミナーハウス
- ・ 参加者:関西を中心とした社会教育団体、NGO/NPO、開発教育関連団体から19名、ALEプロジェクトチームとスタッフ9名
- ・ 目的:
  - 1) 社会教育団体、開発教育団体の関係者とともにアクティブ・シティズンシップを考え、推進すること
  - 2) 作成中のハンドブックの内容を実施し、意見をもらうこと
  - 3) 課題解決に取り組む中で「市民性を育む教育」を意識化すること
  - 4) 市民性を育む活動をしている団体や個人のネットワークの場とすること
- ・ プログラム:

ALEナレッジサイト(URLを参照)に詳細を記載。  
<https://ale-dear.net/news/838/>

#### <ハンドブックの作成およびそのためのお試し>

社会教育や市民活動で、アクティブ・シティズンシップ教育を意識化し、既存の取り組みや活動を整理、再評価しながら、活動の推進や、さらなる挑戦につなげることを目的に作成。アクティブ・シティズンシップ教育の要素を取り入れるなかで、自己変容・社会変革の関係を意識し、一人ひとりがエンパワーメントされる学習を推進することを目指す。

#### <概要>

- ・ 『社会教育・生涯学習実践のための おとな・ユースのアクティブ・シティズンシップ教育ハンドブック』
- ・ 解説編:アクティブ・シティズンシップのための成人教育とは、および枠組みについて
- ・ 実践編:7つのアクティビティを掲載。自分の課題から社会の課題に目を向け、最終的には社会の

課題について考えることができる構成となっている。

- ・ 資料編: ALEプロジェクトチームが翻訳に携わった「成人学習および成人教育に関する勧告」および、「第7回国際成人教育会議『マラケシュ行動枠組み』成人学習および成人教育の変革力を活かすために」の全文を掲載。
- ・ 改訂を加え、2024年8月に発行予定。
- ・ 各地域でのお試しの実施: 5回

### <プロジェクト会議の実施>

- ・ ALEプロジェクト全体会議(11回)
- ・ チーム会議(6回)

### <ウェブサイトの運営>

CONFINTEAVIIに関連する公式文書や市民社会の動き、成人学習・教育に関する現地訪問などのレポートを通じて、日本におけるALEの取り組みの活性化とのため、ウェブサイト(以下のURLを参照)上で、情報を掲載・発信している。

『ALE成人学習・教育ナレッジサイト』

URL: <https://ale-dear.net/>

### ③学びあいフォーラム

2015年度～2020年度まで、地球環境基金の助成を受けて活動をおこなった「学びあいフォーラム」では、これまでの活動の成果を整理し、取りまとめるために2021年度から2023年度までアーカイブチーム、座談会チーム、学びあいサークル等のチームに分かれ、それぞれの関心に基づいて活動を実施した。この3年間のまとめは、2024年度に報告する予定。

## 2) 海外ネットワーク事業

### ①ASPBAEとの協働

DEARが団体会員になっているアジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE/アスベ)が開催した成人教育会議(CONFINTEAVII)に関するフォローアップ会議等に参加したり、情報共有を行った。

### ②ESD alliance プロジェクトへの参加

DVV International (ドイツ成人教育協会国際

部) 主催の標記プロジェクトに伊藤職

員が参加。世界各地から12の成人学習・教育機関がパートナー団体として参加し、Whole Institute Approachの観点で活動を実施。そのふりかえりや各地での経験に基づき、持続可能な教育活動をもたらす組織のコンセプトやグッドプラクティス示した成果物『Guidebook Sustainable ALE & Tools』を共同で作成した(2024年度4月完成)。

## II. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。機関誌は「国際協力を通じた学び」をテーマに特集を組んだ。

### 1)「開発教育研究会」

#### ①「SDGsと開発教育研究」部会

2020年度に発行したハンドブック『SDGs 学習のつくりかた: 開発教育実践ハンドブックII』をテキストに、各テーマへのより深い理解を促すことを目的に第3期 DEAR カレッジを開催した(詳細は9頁参照)。2023年度に、SDGs学習がどのように進められているのかを広く把握するために実施した、SDGs 学習の展開アンケート調査をもとに、授業づくりなどへのサポートにつながる展開を目指した。

#### ②「開発教育ファシリテーション研究」部会

過去3回にわたって実施してきた「開発教育ファシリテーション講座」の修了生へのインタビューをおこない、論点を整理してきた。講座参加の動機、受講前後の変化、そしてファシリテーション観、開発教育観などについて、参加者の語りを深く聞き、その成果を「開発教育のファシリテーションの9要素と8つのスキル」としてまとめてウェブサイト上で発信した(以下のURLを参照)。なお、研究会は、2023年度は8回開催した。

<https://www.dear.or.jp/activity/12836/>

#### ③「ジェンダーと開発教育研究」部会

過去3年間にわたって、開発教育教材をジェンダー

の視点で見直し、ジェンダー教育に係るワークショップ実践を積み重ねてきた。本年度はその成果をまとめ、『すべての人が生きやすい社会へ 教育をジェンダー視点で見直すヒント集』を発行し(詳細は後述の「情報・出版事業」を参照)、ジェンダー視点で教育を見直すためのチェックリストやヒント、活用できるワークを掲載した。なお、研究会は、2023年度に全11回開催し、ハンドブックの企画、執筆、編集を担当した。

## 2) 機関誌『開発教育』の編集発行

機関誌『開発教育』第70号を発行した。特集は「国際協力を通じた学び」とした。20年ぶりに国際協力の特集した本号では、約20年間の社会情勢や国際協力を取り巻く状況を踏まえながら、国際協力における開発教育の役割を再考し、今後の開発教育に役立てていく道筋や展望を提示することをねらいとして、その理論と実践を紹介した。

### <概要>

- ・ 特集:「国際協力を通じた学び」
- ・ 発行:2023年12月10日
- ・ 判型・頁数:B5判・142頁
- ・ 発行部数:900部
- ・ 価格:2,200円(税込み)



また、2022年度に発行した、『開発教育 69号』(40周年特別号、特集「開発教育この10年、そして次の10年に向けて」)について自由に語り合う「機関誌オンラインカフェ」を開催し、各論文の感想や気づきを共有した。

### <オンライン機関誌カフェ概要>

- ・ 日時:2023年5月12日(金)19:30~21:00
- ・ 参加者:7名

## 3) d-lab2023(第41回開発教育全国研究集会)の開催

41回目となる今回は4年ぶりに対面で開催した。ワークショップ体験(6コマ)、全体会、自主ラウンドテーブル(15コマ)、実践事例・研究報告(2コマ)、分科会(5コマ)を通して、開発教育・ESD・国際理解教

育等に関わる実践者の経験交流・意見交換を中心に据えながら、議論を深めた。

全体会では、司会を南雲勇多氏(DEAR 評議員・東日本国際大学)が務め、ゲストに西崎萌氏(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)と西野博之氏(フリースペースたまりば理事長)を招いて、「子どもの権利から考える、自分と社会への問い」をテーマに参加者と共に議論した。

### <概要>

- ・ 日程:2023年8月11日(金・祝)、12日(土)



左から全体会司会の南雲氏、ゲストの西野氏と西崎氏

- ・ 会場:JICA 地球ひろば(東京・新宿区)
- ・ 参加者数:223名(2日間合計、関係者を含む)
- ・ 主催:(特活)開発教育協会
- ・ 後援:文部科学省、外務省、環境省、消費者庁、国連広報センター、JICA 地球ひろば、東京都教育委員会、新宿区教育委員会、ESD 活動支援センター、SDGs 市民社会ネットワーク、関西 NGO 協議会、国際協力 NGO センター、自治体国際化協会、ユネスコ・アジア文化センター

## Ⅲ. 情報・出版事業

新規教材等の作成・増刷、ウェブサイトやSNSを活用した情報発信を行った。

### 1) 新規教材図書の企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の企画編集や制作発行や増刷をおこなった。またそのために、引き続きその財源の確保に努めた。

#### ① 教材「18歳成人とキャリア教育」発行

18歳成人制度の施行を契機に、主体的な市民とし

て「おとなになる」に向き合うことを目的に発行の準備を行った。「はたらくこと」を自分たちの地域を拠点に考え、国内外の多様な人たちのエピソードから働き方の多様性を知り、市民としての社会参加を模索することを中心とした内容となっている。

#### <概要>

- 発行:開発教育協会
- タイトル:『18歳成人とキャリア教育:グローバル社会で「おとなになる」を考える』
- 発行日:2023年4月20日
- 判型・頁数:A4判・76頁
- 発行部数:500部
- 価格:¥1,650(税込)
- 対象:中学生以上



### ② ハンドブック「すべての人が生きやすい社会へ 教育をジェンダー視点で見直すヒント集」発行

自分の無意識にあるジェンダー規範に気づいたり、姿勢や態度をふりかえったりしたうえで、ジェンダー平等に向かう学習プログラムを進めるためのヒント(チェックリスト、ワーク)を掲載。ハンドブックを通じて、あらゆる教育の現場、さらには社会全体でジェンダー平等に向かう動きを後押しすることを目的としている。

- 発行:開発教育協会
- タイトル:『すべての人が生きやすい社会へ 教育をジェンダー視点で見直すヒント集』
- 企画・編集:開発教育とジェンダー研究会
- 助成:公益財団法人市川房枝記念会女性と政治センター「市川房枝女性の政治参画基金」、特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク
- 2024年3月、A4判72頁
- 発行部数:1,000部
- 価格:¥2,200(税込)
- 対象:実践者向け(ワークは小学生以上)

### ③消費者教育教材資料表彰

『服・ファッション 開発教育アクティビティ集5』(2021年発行)が、2023年消費者教育教材資料表彰消費者庁長官賞を受賞。この賞は、(公財)消費者教

育支援センターが主催するもので、教育現場で役立つ優秀な教材を表彰することで、学校における消費者教育の充実・発展に寄与することを目的に実施されるものである。2022年度には同「優秀賞」を受賞した。



### ④その他図書教材の編集企画・編集協力

既存の教材で在庫が少ない以下の教材の改訂・増刷発行を行った。

#### <単純増刷>

『フードマイレージ:どこからくる?私たちの食べ物』

発行:開発教育協会

発行日:(初版)2016年、(増刷)2023年6月

発行部数:500部

### 2)出版物販売

当会発行の教材・図書資料をインターネット等を通じて販売した他、関係団体の発行図書の受託販売、教材カタログやAmazonなどの販路で販売を行い自己財源の強化を図った。

<書籍売り上げ年間ベスト5>

- 『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら 第6版』 584冊
- 『新・貿易ゲーム』 376冊
- 『服・ファッションー開発教育アクティビティ集5』 152冊
- 『18歳成人とキャリア教育:グローバル社会で「おとなになる」を考える』 130冊
- 『プラスチックごみー開発教育アクティビティ集4』 104冊

### 3)広報資料作成

①ウェブサイトの運営 <https://www.dear.or.jp/>

開発教育ポータルサイトとしてウェブサイトでの情報発信を行った。よく読まれているのは「教材」「イベント」「参加型学習」関連のページである。SNSのアイコンを更新するなどマイナーチェンジを行った。

※解析ツール(google analytics)の仕様変更のため今年度は正確なアクセス解析データがとれなかった。

## ②DEARプラットフォームの運営

<http://platform.dear.or.jp/>

「学びあいフォーラム」事業の一環で、全国の開発教育の団体や実践、リソースを紹介するウェブサイトを開発し、2019年6月に開設した。

事業終了に伴い記事更新を停止している。

## ③スタッフ・ブログの運営

<https://dearstaff.blogspot.com/>



講師派遣レポートや事務局の日常業務等を不定期に掲載している。よく読まれているのは、講師派遣レポートである。業務効率化のため、次年度よりnoteに移行する予定である。

- ・ 投稿記事:23本 前年: 33本

## ④Facebookページの運営

<https://www.facebook.com/ngoDEAR/>



2013年8月に全研広報用に開始し、9月末に公式Facebookページとしてリニューアルした。主催イベントや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。閲覧数は一昨年来減少傾向にある。

- ・3月末の「いいね！」数:3,787(前年比+25)
- ・3月末のフォロワー数:4,115(前年比+49)

## ⑤メールマガジンの発行



<https://www.mag2.com/m/0000270703>

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。3月末現在3,969件(前年比-128件)が登録している。

## ⑥X(旧ツイッター)の運営

<https://twitter.com/ngoDEAR>



2011年11月16日にツイッターを導入(アカウント名は@ngoDEAR)。イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。3月末のフォロワー数:1,527(前年比+14)。

## ⑦Instagramの運営

<https://www.instagram.com/ngo.dear/>



2024年8月に全研広報を機に新設した。

- ・ 投稿記事:88本
- ・ フォロワー:130人

## ⑧noteの運営



<https://note.mu/ngodear>

ニュースレター・チームの発案により2018年10月からページを開発し、ニュースレターや機関誌の記事を不定期に公開している。また、逝去された方の原稿や講演録も掲載している。

ページビューは4,516件(昨年比-95件)、「スキ」は34件(昨年比-22件)、記事購入者は21件(昨年比+9件)。

## ⑨資料請求者への対応

ウェブサイト上から無料での資料請求を実施した。全国から55件(前年48件)の請求があり、うち2名(前年1名)の新入会があった。

## ⑩PR TIMESの利用

2018年度よりプレスリリース一括配信サービスPR TIMESの無償提供プロジェクトに参加登録し、不定期で教材発行やイベント情報を掲載している。複数のウェブメディア等に配信されるため、露出効果が高い。

## IV. 人材育成事業

開発教育の実践者を支援し増やすために、講師派遣事業や各種講座を行った。特に、気候変動やジェンダー、SDGsについて、ファシリテーション講座など、多様なニーズに対応した。

### 1)講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校・大学・自治体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対して、DEARの役職員等を講師として計39件121回派遣した。述べ参加者は約4,500名。

今年度からはほぼ対面で実施した。依頼先は大学やNGO、JICAなどが多く、内容は各種ワークショップの他、ジェンダーや気候変動、SDGsをテーマにしたものなどが多かった。詳細は「資料編(19頁)」を参照。

## 2) 第3期 DEAR カレッジ SDGs 学習のつくり方

実践者が SDGs 学習を推進していくうえで、欠かすことができない構造的な理解や、多面的な理解を促すことを目的に第3期 DEAR カレッジを開催した。各テーマの登壇者による講義と、参加者どうしのディスカッションで構成し、23 名が参加した。テーマへ気づきや、実践のふりかえりにつながる講座となった。

<概要>

日程:6月2～7月 14 日(全7回)

会場:オンライン

参加者:23 名



日程	テーマと講師(敬称略)
第1回 6月2日	「総論」 DEAR「SDGs と開発教育」研究会
第2回 6月9日	「平和」 川崎哲(ピースボート共同代表/ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)国際運営委員)
第3回 6月16日	「気候変動とエネルギー」 深草亜悠美(国際環境 NGO FoE Japan)
第4回 6月23日	「ジェンダー」 竹信三恵子(和光大学、ジャーナリスト)
第5回 6月29日	「格差」 井手英策(慶應義塾大学)
第6回 7月7日	「多文化共生」 金光敏(常磐会短期大学、社会教育士)
第7回 7月14日	「SDGs 学習のつくり方」 近藤牧子(DEAR 副代表理事/早稲田大学・非)

## 3) 各種講座

### ①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座をオ

ンライン・対面で開催し、うち2回は特別編とした。毎月1回、計11回、約90名の参加者を得て開催した。8月はd-lab、3月は教材体験フェスタにて実施した。また、12月はタスクメンバー対象の勉強会を開催した。

- ・ 4月21日(金)夜間 11名(パーム油)
- ・ 5月22日(月)夜間 5名(パーム油)
- ・ 6月22日(木)午前 4名(パーム油)
- ・ 7月20日(木)夜間 18名(貿易ゲーム/横浜YMCAにて対面開催)
- ・ 8月11日(金・祝)午後 6名(パーム油/d-lab)
- ・ 9月22日(金)夜間 8名(パーム油)
- ・ 10月24日(火)夜間 8名(パーム油)
- ・ 11月22日(水)夜間 8名(気候変動/聖心女子大学BE\*hiveにて対面開催)
- ・ 12月21日(木) 交流会・勉強会 7名(マレーシア研修報告)
- ・ 1月22日(月)夜間 7名(パーム油)
- ・ 2月22日(木)午後 11名(パーム油)
- ・ 3月24日(日)午前 4名(パーム油/教材体験フェスタ)

### ②教材体験フェスタ 2024

教材の周知と販売、新教材「ジェンダー」の案内、新規参加者ならびに会員の獲得、開発教育の実践に繋がる機会提供を目的に実施。全国・様々な分野から参加があり、繋がりを喜ぶ声も聞かれた。また、『難民』や『18歳成人とキャリア教育ハンドブック』など、複数の教材が売り切れ、167冊と昨年を大きく上回る売り上げとなった。

<概要>

- ・ 日程:3月 24 日(日)10 時～18 時
- ・ 会場:JICA 地球ひろば(新宿区)
- ・ 参加者:78 名
- ・ 講師・ボランティア:27 名

<プログラムと講師(敬称略)>

- ・ A1 開発教育入門講座・パーム油のはなし/大野のどか(入門講座チーム)
- ・ A2 18 歳成人とキャリア教育/近藤牧子・松倉紗野香(教材作成チーム)
- ・ A3 コーヒーカップの向こう側/伊藤容子(DEAR 職員)

- ・ A4 気候変動／高階悠輔(DEAR 評議員)
- ・ B1 新・貿易ゲーム／八木亜紀子(DEAR 職員)
- ・ B2 難民／岩岡由季子(教材作成チーム)
- ・ B3 子どもとできる創造的な対立解決／中村絵乃(DEAR 職員)
- ・ B4 プラスチックごみ／加藤英嗣(教材チーム)
- ・ C1 ワークショップ版・世界がもし100人の村だったら／中村健(DEAR 職員)
- ・ C2 服・ファッション／鈴木啓美・吉崎亜由美(教材作成チーム)
- ・ C3 ジェンダー／近藤牧子(教材作成チーム)
- ・ C4 写真で学ぼう！地球の食卓／八木亜紀子(DEAR 職員)

### ③ おうち DE 開発教育

おうち DE 開発教育プロジェクトは、開発教育に関わりながら子育てをしている人が、開発教育・自分・生活・子育てを語れる場をつくりたいと考え発足した。運営メンバーは5名である。

＜活動内容＞

自由に語り合う「子育てカフェ」と、「おうち DE 開発教育ラジオ」をメイン活動として実施している。子育てカフェは、政治、多様性、環境のテーマ別の語り合いも行った。延べ参加者数は13名。

- ・第1回子育てカフェ:2023年10月17日(火)
- ・第2回子育てカフェ:2023年12月15日(金)
- ・第3回子育てカフェ:2024年2月17日(土)
- ・第1回ラジオ:「2023年度 子育てカフェやってみてどうだった？」配信。

## V.政策提言事業

中期重点事業4にもあるように、SDG4.7だけでなく、SDG4を中心に、開発教育や ESD 実施のための提案をほかの市民団体やネットワークと連携・協力しながら進めた。

### 1) 行政に対する政策提言

#### ①国際協力政策・援助政策に対する政策提言

SDGs 市民社会ネットワークの教育ユニットの世話人になることで、国内の教育問題に関する SDGs 政

策への提言を行うことができた。

「開発協力大綱」の見直しにおいては、昨年度、「開発協力大綱」見直しにおける開発教育に関する要望書を作成し、38団体の賛同と共に、外務省に提出したほか、「開発協力大綱改定に関する市民社会ネットワーク」との協力のもと、政府や議員への政策提言を行った。その結果、当初なかった開発教育の項目が立てられ、学校教育だけでなく社会教育においても開発教育を進めることが明記された。

また、日本政府の SDGs 実施指針の改定においても、広くパブコメを呼びかけ、DEAR としても具体的な提案を含めて提出した。

#### ②教育行政・教育政策に関する政策提言

文部科学省中央教育審議会で検討されていた「次期教育振興基本計画」について、昨年度、DEAR としてパブコメを提出した。今年度は、教育振興基本計画の内容や、自治体への周知などについて、ESDJ とともに、文部科学省に意見書を提出した。

#### ③成人教育に関する政策提言

2022年6月にモロッコのマラケシュで開催された第7回ユネスコ国際成人教育会議(CONFINTEAVII)のアジア地域でのフォローアップ会合が、ユネスコ生涯学習研究所(UIL)とユネスコ・バンコク事務所の共催で2023年5月30日にオンラインにて開催された。アジア地域の省庁、大学、市民社会、教育機関から100名以上の参加者が集まり、成果文書である、マラケシュ行動枠組み(MFA)の公約の実現を支援するための地域・国レベルでの実現可能な行動を決定した。

DEAR からは ALE プロジェクトチームが参加したほか、大臣官房審議官(総合教育政策局担当)と課長補佐の参加を得ることができた。会合前の5月17日に、文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課との意見交換の場を設定し、課長補佐から「生涯学習推進課の役割として、社会教育行政の力量形成を重視する」という見解を得ることができた。

### 2) キャンペーンへの協力

#### ①教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)主催「SDG4 教育キャンペーン 2023」への協力

基礎教育を受けられない子どもたちや非識字の人々が世界中に多くいる現状に目を向け教育の大切さを世界中で同じ時期に考える、グローバルなキャンペーン。2016年度よりSDG4(教育目標)達成を目標に掲げている。昨年度まで担当していた事務局はセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに交代し、今年度は実行委員メンバーとして参加・協力した。

<概要>

- ・ キャンペーン日程:2023年2月20日(月)～4月30日(日)
- ・ テーマ:みんなでつくろう 紛争下の教育×平和のアート
- ・ G7広島サミット:5月19日、JNNEではC7として「紛争下の教育×平和」のテーマで記者会見を行った。子どもを含む市民から1000点以上のアート作品を集め、制作したモザイクアートを発表した。

## VI.その他の事業

### 1)受託事業

#### ①外務省「NGO相談員プログラム」

外務省より標記プログラムを受託し、関東圏を中心に全国から開発教育や国際協力に関する幅広い相談を827件受けた。出張サービスは関東圏を中心に5件行った。また、SNSを通じて相談員制度に関する情報発信も行い、約6,350件のリーチ数であった。

#### ②聖心グローバルプラザ内「BE\*hive」

聖心女子大学グローバルプラザ内に設置された展示・ワークショップスペース「BE\*hive(ビー・ハイブ)」の展示を活用したワークショップの企画・運営等を行った。2023年度は展示の大テーマが「子どもと不条理」であり、第1期「こどもと戦争」、第2期「こどもと放射線」の2種類のプログラム開発を行った。

<概要>

聖心グローバルプラザ「BE\*hive」

主管:聖心グローバル共生研究所

<業務内容>

##### A.ワークショップの企画

- ・ 展示を使ったワークショップの企画

- ・ ワークシート・プレゼン資料の作成
- ・ ワークショップ進行案・実施後のふりかえり・ワークショップの改善

##### B.ワークショップの実施

- ・ ワークショップ実施回数:28回(うち聖心女子大学学生向け21回)
- ・ 参加合計数:約800名(うち聖心女子大学基礎課程演習参加者約400名)

### ③國學院大学 SDGs講座企画運営

國學院大学の共通教育プログラムとしてSDGsに関する授業「共存・共生の思想2」を、参加型で進めるための授業案の提供と実施、ファシリテーターの研修などを行った。(履修者:約100名)

### 2)外部団体との共催・協力事業

#### ①2023年度開発教育・国際教育セミナー

<主管:DEAR大阪>

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する、開発教育に関する基礎的理解を目的とした連続セミナーの企画・開催に協力した。

<開催実績>

日程:2023年10月29日(日)

プログラム:開発教育・国際教育セミナー「世界を知る、体感する ～世界のゴトは自分ゴト～」

A. 世界がもし100人の村だったら

B. 貿易ゲーム

会場:大阪国際交流センター

共催:(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センター

協力:DEAR大阪

講師(敬称略):西上壽一・岡本領子

参加者数:A:21名 B:24名

#### ②ESD活動支援センター運営委員

ESD 推進ネットワークの全国的なハブとなり、ESD活動の支援を行うため、文部科学省と環境省により開設された「ESD 活動支援センター」の運営委員として、近藤牧子副代表理事が会議等に参加した。

### 3. 組織運営に関する報告

#### 1) 会報「DEAR ニュース」の編集発行

開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活動状況を紹介することを目的とした会報を5回(4・6・8・10・2月)、各号900部を発行した。また、過去掲載の記事の一部をウェブメディアの「note」に公開し、会員以外の方にも読めるようにした(1記事100円の有料配信)。

号	特集(寄稿者は敬称略)
第211号 (4月発行)	クーデターから2年目のミャンマー情勢と日本 継続する日本政府の「開発協力」の意味は？:木口由香(メコン・ウオッチ)
第212号 (6月発行)	識字教室から夜間中学、そして 大阪市西成区での学びの場:黒川優子(鶴見橋よみかきありがとうの会)
第213号 (8月発行)	刑務所における更生支援への転換と今後の課題:中島学(福山大学教授・龍谷大学客員教授)
第214号 (10月発行)	d-lab2023全体会採録「子どもの権利から考える、自分と社会への問い」
第215号 (2月発行)	パレスチナ/イスラエルは普遍的な課題:早尾貴紀(東京経済大学教員)

#### 2) サポーターの募集

DEARを資金面で継続的に支援していただける人を増やし、組織強化につなげるために、2014年12月よりサポーター制度(年4,000円以上の定額寄付制度)を開始し、募集をすすめている。今年度は、過去会員や研修会参加者、書籍購入者にメールDMを送ったり、会員継続の際の紹介など、サポーターへの依頼を行った。

#### 3) 40周年記念募金 プレゼント送付&交流会

昨年度、40周年寄付キャンペーン「未来につなぐ開発教育」で集まった寄付金を、これから開発教育を進めたい方に、教材やワークショップとしてプレゼントする企画を実施した。プレゼント希望者を募り、延べ

75件の応募があった、そのうち67名の方々に教材や講師派遣などのプレゼントを贈った。さらに、寄付をした人と、プレゼントをもらった人の交流会を2回開催し、延べ50名の方々の参加があった。交流会への参加者からは、「教材をぜひ使ってみたい。還元していきたい」「実践している人と会えていろいろ聞けて楽しかった」などの感想があった。また、その後、d-labや入門講座への参加もあった。

#### 4) クラウドファンディングの実施

教材『教育をジェンダー視点で見直すヒント集』作成のための費用をクラウドファンディングで集め、194名の方から196件、1,058,639円を募ることができた。クラウドファンディングの実施により、今までDEARを知らない方も多く寄付して下さったことから、教材の広報としても成果があった。今後も実施していきたい。



実施期間	10月18日(月)～12月15日(水)
目標金額	100万円
媒体	syncable(シンカブル)
寄付数	194名(196件)
合計	1,058,639円

#### 5) 会員交流会の実施

DEAR会員の意見や声を聞くために、DEARオンライン会員交流会を実施した。今後も継続的に実施する。

第1回 2023年12月7日(木)19:30～21:00

参加者:11名

第2回 2024年3月15日(金)19:30～21:00

参加者:12名

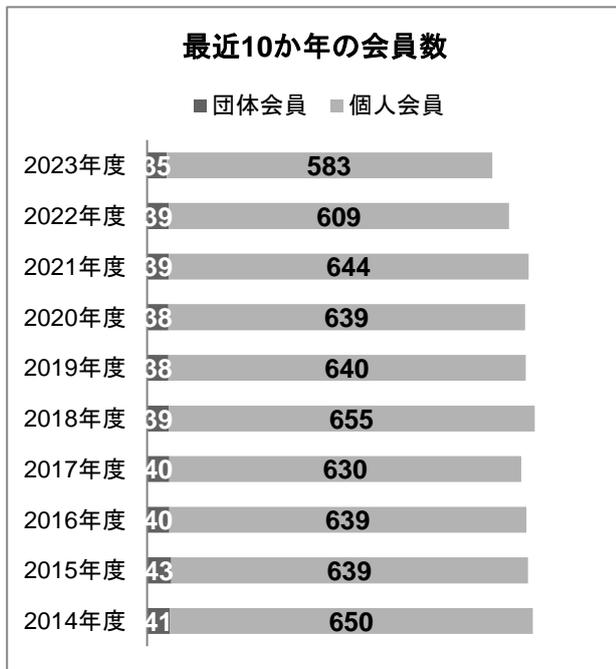
以上

## 処務の概要

### 1) 会員に関する事項

2024年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

●正会員	団体 19団体(−2団体)
	個人 348名(−21名)
●賛助会員	団体 16団体(−2団体)
	個人 235名(−5名)
	(内学生会員:16名／+4名)
<参考>	団体会員 35団体(−4団体)
	個人会員 583名(−26名)



### 2) 役員等に関する事項(2024年3月末現在)

注: 役員等は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです。

#### ●代表理事

湯本浩之(宇都宮大学)

#### ●副代表理事

近藤牧子(大学非常勤講師)

佐藤友紀(大学非常勤講師)

#### ●常任理事

阿部秀樹(会社員)

阿部眞理子(認定NPO法人IVY)

前嶋 葵(NPO法人コモンビート)

松倉紗野香(中学校教員)

#### ●理事

石川一喜(拓殖大学)

片岡麻里(元公益社団法人ガールスカウト日本連盟)

上條直美(フェリス女学院大学ボランティアセンター)

坂口和隆(認定NPO法人シャプラニール＝市民による海外協力の会)

奈良崎文乃(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

西川千佳子(マーケティングパートナー)

西平久美子(NPO法人ハンガー・フリー・ワールド)

三宅隆史(公益社団法人シャンティ国際ボランティア会／教育協力NGOネットワーク)

中村絵乃(認定NPO法人開発教育協会)

#### ●監事

田中治彦(上智大学)

山崎唯司(団体役員)

#### ●顧問

岩崎裕保(NPO法人関西NGO協議会)

#### ●評議員

青山由衣(公務員)

秋山映美(NPO法人監獄人権センター)

岡 秀樹(志のぶ幼稚園)

小口瑛子(学校職員)

加藤英嗣(小学校教員)

逆瀬川愛貴子(東京大学大学院)

鈴木洋一(Wake Up Japan)

高階悠輔(認定NPO法人シャプラニール＝市民による海外)

協力の会)

田中 滋(NPO法人アジア太平洋資料センター)

南雲勇多(奈良教育大学)

永田賢介(認定NPO法人アカツキ)

西山典仁(マーケティングパートナー)

古沢広祐(NPO法人「環境・持続社会」研究センター)

星久美子(公益財団法人かながわ国際交流財団)

山本康夫(団体職員)

### 3) 会員総会に関する事項

2023年度定期会員総会

日時:2023年5月27日(土)

会場:オンライン

<第1部>13:00~14:30

オンライン講演会『18歳成人とキャリア教育:グローバル社会で「おとなになる」を考える』

講演:田中治彦(DEAR監事)、南部義典(国民投票総研代表) 進行:近藤牧子(DEAR副代表)

<第2部> 15:00~16:30

2023年度定期会員総会

<議案審議>

1)2022年度事業報告および決算報告について

<報告>

1)永年会員表彰

2)2023年度事業計画および予算について

3)意見交流会

### 4) 理事会に関する事項

#### ●第1回理事会

日時:2023年5月27日(土)16:45~17:45

会場:オンライン

議案:

1. 各種委員会の設置および委員選任
2. 職員給与と給与規程の改訂について

#### ●第2回理事会

日時:2023年10月21日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議案:

1. 上半期事業報告・決算報告・下半期事業計画
2. 評議員候補者選考委員会について

3. CODE進め方について

4. 書籍作成、書籍販売計画について

#### ●第3回理事会

日時:2024年3月2日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議案:

1. 2023年度の事業報告・決算見込報告
2. 組織体制について
3. 2024年度事業計画・予算

#### ●第4回理事会

日時:2024年4月27日(土)13:00~16:00

会場:ハイブリッド(立教大学、オンライン)

議案:

1. 2023年度事業報告・決算報告
2. 代表・副代表・常任役員選考プロセスに関する内規について
3. 次期役員候補者について
4. 2024年度事業計画・予算案について
5. 組織・事業の検討について
6. 2024年度会員総会について

### 5) 評議員会に関する事項

#### ●第1回評議員・理事合同会議

日時:2023年9月23日(土)13:00~16:00

会場:オンライン

議題:

<第1部 評議員会>

1. DEAR 報告
2. 理事候補者選考委員会設置

<第2部 グループディスカッション>

- ①問題意識の共有
  - ②ディスカッション
- ・開発教育について
- ・DEAR について

#### 6)2023年度事業評価・2024年度計画会議

2023年度の事業評価と、2024年度の事業計画を共有し、議論した。

日時:2024年2月17日(土)13:00~17:00

会場:オンライン

議題:

- ・2023年度事業評価
- ・2024年度事業計画

## 7) 各種委員会に関する事項(2024年3月末現在)

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。

(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

### ①DEAR大阪運営委員

委員長:佐藤友紀(大学講師)

委員:岩崎裕保(関西NGO協議会)／大森容子(滋賀県国際協会)／談儀善弘(高校教員)／榛木恵子(聖和共働福祉会)／丸山まり子(地球市民フォーラムなら)／中道愛子(神戸YMCA)／三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)

### ②機関誌「開発教育」編集委員会・査読委員会

青沼由衣(公務員)、小貫仁(多文化共生運動)、小口瑛子(学校職員)、小野行雄(かながわ開発教育センター)、上條直美(フェリス女学院大学)、木村万里子(日本国際ボランティアセンター)、近藤牧子(大学非常勤講師)、佐渡友哲(日本大学)、重田康博(宇都宮大学)、田中治彦(上智大学)、奈良崎文乃(プラン・インターナショナル・ジャパン)、真加部湧大(Soka International School Malaysia)、山中信幸(高校・大学非常勤講師)、湯本浩之(宇都宮大学)、中村絵乃・岩岡由季子・松川清美(DEAR)

## 8) プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。

(註:役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

### <研究会・プロジェクト・チーム>

#### ①SDGs研究会

氏井紅葉(上智大学)、上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(大学非常勤講師)、田中治彦(上智大学)、松

倉紗野香(中学校教員)、本山明(大学非常勤講師)、湯本浩之(宇都宮大学)、伊藤容子・中村絵乃(DEAR)

#### ②ファシリテーション研究会

阿部眞理子(IVY)、岩岡由季子(会社員)、上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(大学非常勤講師)、松倉紗野香(中学校教員)、谷田なつ美(小学校教員)、山本敬典(中学校教員)、山本康夫(団体職員)、伊藤容子・中村絵乃・中村健(DEAR)

#### ③d-lab2023(第41回開発教育全国研究集会)実行委員会

阿部眞理子(IVY)、加藤英嗣(小学校教員)、木下智実(小学校教員)、佐藤友紀(DEAR理事)、島田晶子(小学校教員)、高橋美和子(関西NGO協議会)、登島おりは(大学生)、友前尚子(開発教育研究会)、奈良崎文乃(プラン・インターナショナル・ジャパン)、秦さやか(小学校教員)、松下直樹(高校教員)、松倉紗野香(中学校教員)、本山明(大学講師)、谷田なつ美(小学校教員)、中村絵乃、伊藤容子、岩岡由季子(DEAR)

#### ④「開発教育入門講座」チーム

大野のどか(シェアスペースオーナー)、小口瑛子(会社員)、川田雅俊(学校教員)、定光香(リーダー／会社員)、田中浩平(団体職員)、土戸友理香(会社員)、原麻衣(会社員)、林まりな(個人)、福島智子(団体職員)、宮原契子(団体職員)、山本敬典(中学校教員)、尾畑裕巳(個人)、岩岡由季子、進藤夏葉、八木亜紀子(DEAR)

#### ④ 会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー／会社員)、佐藤友梨(会社員)、陣野俊彦(高校教員)、高橋瑞季(会社員)、滝本雅章(事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、出口雅子(団体職員)、中園真由美(個人)、林美帆(団体職員)、八木亜紀子、松川清美(DEAR)

#### ⑥「学びあい」コーディネーターチーム

阿部眞理子(IVY)、大野のどか(八王子市民のがっこうまなび・つなぐ広場)、佐藤友紀(高校教員)、関愛(いがたNGOネットワーク国際教育研究会RING)、南雲勇多(奈良教育大学)、西あい(学びあい事業コーディネー

ター)、山西優二(早稲田大学)、伊藤容子・中村絵乃  
(DEAR)

### ⑦ジェンダー研究会

岩岡由季子(会社員)、片岡麻里、木村明日美(団体職員)、小口佳那子(British Red Cross)、近藤牧子(大学非常勤講師)、三輪敦子(アジア・太平洋人権情報センター)、奈良崎文乃(プラン・インターナショナル・ジャパン)、伊藤容子・中村絵乃・牧啓太・中村健(DEAR)

### ⑧ALEプロジェクト・チーム

片岡麻里、栗本知子(PARC)、上條直美(フェリス学院大学)、大安喜一(ユネスコ・アジア文化センター)、小荒井理恵(教育協力NGOネットワーク)、近藤牧子(大学非常勤講師)、福田紀子(旅路の里)、三宅隆史(教育協力NGOネットワーク)、湯本浩之(宇都宮大学)、伊藤容子・中村絵乃・牧啓太(DEAR)

### ⑨募金等検討チーム

阿部秀樹(会社員)、高階悠輔(団体職員)、奈良崎文乃(団体職員)、西川千佳子(会社員)、西平久美子(団体職員)、西山典仁(会社員)、前嶋葵(団体職員)、伊藤容子・牧啓太・中村絵乃・八木亜紀子(DEAR)

### ⑩おうち DE 開発教育チーム

小口瑛子(会社員)、近藤牧子(大学非常勤講師)、清水千絵(ファシリテーター)、前嶋葵(団体職員)、谷田なつ美(小学校教員)、松川清美(DEAR)

## 10)職員に関する事項

事務局長	中村 絵乃(有給・常勤)
事務局次長	伊藤 容子(有給・常勤)
事業主任	岩岡 由季子(有給・常勤 8月まで)
事業担当	進藤 夏葉(有給・非常勤 5月から)
事業担当	中村 健(有給・非常勤 8月から)
事業担当	松川 清美(有給・非常勤 9月から)
事業担当	八木 亜紀子(有給・常勤 6月から週4日出向)
経理・総務主任	牧 啓太(有給・常勤)
書籍担当	若松 陽子(有給・非常勤)

## 11)インターン・ボランティアに関する事項

今年度参加したインターン・ボランティアは次の通り。

＜事務局インターン＞

田中沙知(会社員、2023年5月～7月)

＜事務局ボランティア＞

滝本雅章(社会人、2007年11月～継続)

氏井紅葉(学生、2018年8月～2023年8月)

工藤冴子(学生、2023年5月～継続)

増子結香(学生、2023年8月～継続)

佐藤圭一(社会人、2023年8月～継続)

佐藤晴香(学生、2023年10月～継続)

柳川ゆい(社会人、2023年11月～継続)

岡田歩奈美(学生、2023年11月～継続)

佐井木 敬裕(社会人、2023年12月～継続)

登島おりは(学生、2022年4月～2023年8月)

伊藤聖矢(会社員、2023年2月～継続)

＜フリースペースえん 講師派遣ボランティア＞

岩岡由季子(会社員)

西脇さやか(劇あそび・表現教育ファシリテーター)

星久美子(元DEAR職員)

谷田なつ美(小学校教員)

## 12)会員団体に関する事項

DEARが正会員として参加した団体は次の通り。

- ・ アジア南太平洋基礎・成人教育協会(ASPBAE)
- ・ 認定NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・ 教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・ 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク

### 資料1: メディア掲載・取材協力など

#### <新聞>

##### ①北海道新聞(2023年10月26日)

北海道新聞朝刊の「くらし」欄でDEARの教材『服・ファッション 開発教育アクティビティ集5』が紹介された。併せて事業担当職員・八木亜紀子のインタビューも掲載された。

##### ②沖縄タイムス(2024年3月9日)

2024年3月9日(土)、10日(日)にJICA沖縄センターで開催された沖縄県主催の平和教育指導者養成講座の様子と事務局長・中村絵乃のコメントが掲載された。

#### <雑誌>

##### ①『国民生活』2024年1月号(No.137)

発行:国民生活センター

会員の松田剛史氏(藤女子大学)が連載記事「消費者教育実践事例集」の第116回として「衣服がもたらす社会問題を知り、自分の衣生活を見つめ直そう」を寄稿。その中で教材『服・ファッション』を活用した大学での実践報告が掲載された。

#### <書籍>

##### ①時報『市町村教委』No.305(2023年7月号)

編集・発行:全国市町村教育委員会連合会

「論考」に代表理事の湯本浩之が「『SDGsを学ぶこと』の陥穽(かんせい)と今後の課題～『持続可能な社会の創り手』を育てていくには」を寄稿した。

##### ②日本の社会教育 第67集『SDGsと社会教育・生涯学習』(2024年10月)

発行:東洋館出版社

編者:日本社会教育学会

日本社会教育学会編集の『SDGsと社会教育・生涯学習』に、DEAR理事の近藤牧子、田中治彦、三宅隆史が寄稿したほか、DEARの「SDGsと開発教育研究会」が実践事例を報告した。

##### ③『SDGs時代の地理教育:「地理総合」への開発教育からの提案』(2024年3月)

発行:学文社

編者:湯本浩之・西岡尚也・黛京子

高校の地歴科に必修科目の「地理総合」が新設されたことから、DEAR会員の地理教員が中心となり、開発教育の教材や授業案を紹介する本書を編集執筆した。DEARは教材情報を提供するなど、その編集に協力した。

## 資料 2: 「名義後援・協力」の実績一覧 (計9件)

### <後援名義>

- ① 独立行政法人国際協力機構  
「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2023」
- ② NPO法人関西NGO協議会  
「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2023～私たちの描く持続可能な社会の未来図～」
- ③ 公益財団法人滋賀県国際協会  
「国際教育教材体験フェア in 滋賀 2023」
- ④ 公益財団法人滋賀県国際協会  
「2023 年度国際教育ワークショップ 地球市民を地域とともに育てよう part22 「身近なことから世界と私を考える学びを創る～平和・環境へまなざしを向けて～」
- ⑤ 独立行政法人国際協力機構関西センター  
「国際教育入門セミナー2024 in奈良 「スマホと

考える世界とわたし～平和・環境・人権の視点から～」

### <協力名義>

- ① 特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC)「映像とワークショップで学び・語り・伝えるサステナビリティ～スマホ・水・プラゴミ、そして農～」
- ② 独立行政法人国際協力機構関西センター  
「2023 年度開発教育・国際教育セミナー入門編」
- ③ NPO法人さっぽろ自由学校「遊」  
「2023 年度後期講座 ワークショップで共に学ぶ―世界と「北海道」の開発・多様性・未来」
- ④ 独立行政法人国際協力機構関西センター  
「2023 年度開発教育・国際教育セミナー「世界を知る、体感する ～世界のコトは自分ゴト～」

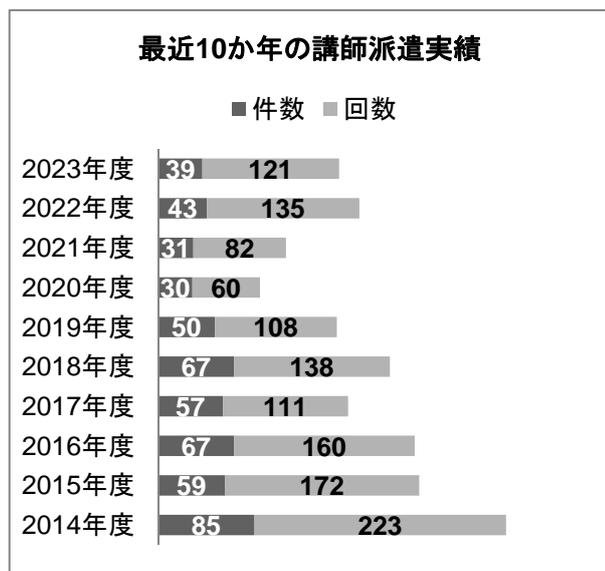
## 資料 3: 他団体への「賛同・協賛」の実績一覧 (計5件)

### <賛同>

- ① NGO 非戦ネット  
「NGO 非戦ネット趣意書」(2023 年7月 28 日)
- ② 国際環境 NGO FoE Japan ほか  
「ワタシのミライ」プロジェクト (2023 年8月8日)
- ③ NPO 法人日本国際ボランティアセンター (JVC) ほか  
「日本の NGO による外務省への要請文  
イスラエル・パレスチナにおける武力行為の即時停止への働きかけを求めます」(2023 年 10 月 23 日)

- ④ NPO 法人日本国際ボランティアセンター (JVC) ほか  
「日本の NGO による外務省への要請文  
イスラエル・パレスチナにおける武力行為の即時停止への働きかけを求めます」(2023 年 11 月 14 日)
- ⑤ NPO 法人日本国際ボランティアセンター (JVC) ほか  
「日本の NGO による外務省への要請文  
: 日本政府による UNRWA への資金拠出一時停止の撤回を求めます」(2024 年2月8日)

## 資料 4:「講師派遣」の実績一覧 (計 39 件 121 回)



実施形態: オンライン

### 5 「教員研修会」(2023/5/8/計 1 回)

主催: 稲城市立稲城第五中学校

内容: 100 人村

対象: 教員・教育関係者

派遣者: 中村絵乃、中村健(事業担当)

実施形態: 対面

### 6 「東洋大生がワークショップで考える SDGs」(2023/5/20/計 1 回)

主催: 東洋大学

内容: SDGs 学習

対象: 大学生

派遣者: 八木亜紀子

実施形態: オンライン

### 1 「会員向けセミナー」(2023/4/10/計 1 回)

主催: さがみはら ESD 推進協議会

内容: パーム油;

対象: 企業・会社員

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

実施形態: 対面

### 2 「中学 1 年生総合的な学習 コミュニケーションワークショップ」(2023/4/10、18/計 2 回)

主催: 学校法人平和学園

内容: 対立から学ぶ

対象: 中学生

派遣者: 中村絵乃

実施形態: 対面

### 3 「第 2 学年総合的な探求の時間」(2023/4/27/計 2 回)

主催: 埼玉県立八潮南高等学校

内容: パーム油; ファッション

対象: 高校生

派遣者: 八木亜紀子(事業主任)、岩岡由季子(事業主任)

実施形態: 対面

### 4 「杉村ゼミナール」(2023/5/3/計 1 回)

主催: 上智大学 短期大学部

内容: パーム油

対象: 大学生

派遣者: 伊藤容子(事務局次長)

### 7 「令和 5 年度「消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～」」(2023/5/25/計 1 回)

主催: (財) 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所

内容: バーンガ、ほか

対象: 自治体・公務員

派遣者: 伊藤容子

実施形態: 対面

### 8 「奈良県開発教育ワークショップ」(2023/5/28/計 1 回)

主催: JICA 関西 奈良デスク

内容: 100 人村

対象: 教員・教育関係者

派遣者: 佐藤友紀(副代表理事)

実施形態: 対面

### 9 「FLP 国際協力プログラム中川康弘ゼミ」(2023/6/2/計 1 回)

主催: 中央大学

内容: ファッション、キャリア教育

対象: 大学生

派遣者: 岩岡由季子、進藤夏葉(事業担当)

実施形態: 対面

10 「国際理解ワークショップ」(2023/6/10/計 6 回)

主催:鎌倉女学院中学校・高等学校

内容:パーム油、コーヒー、スマホ

対象:高校生

派遣者:伊藤容子、岩岡由季子、小口瑛子(評議員)、進藤夏葉

実施形態:対面

11 「新入職員学校」(2023/6/13,14,7/19,20,8/17,18/計 6 回)

主催:神奈川県民生医療機関連合会

内容:貧困について学ぶ

対象:企業・会社員

派遣者:中村絵乃、伊藤容子、中村健、進藤夏葉

実施形態:対面

12 「ワークショップ 世界がもし 100 人の村だったら」  
(2023/6/15/計 1 回)

主催:JICA 関西

内容:100 人村

対象:教員・教育関係者

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

13 「中2/中3グローバルラボ」(2023/7/18,9/22/計 4 回)

主催:甲南中学校

内容:100 人村、貿易ゲーム

対象:中学生

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

14 「令和 5 年度消費者教育教員研修」(2023/7/31/計 1 回)

主催:神奈川県県民局

内容:パーム油

対象:教員・教育関係者

派遣者:伊藤容子、進藤夏葉

実施形態:対面

15 「第 2 回国際理解講座」(2023/7/14/計 1 回)

主催:愛知県立刈谷北高等学校

内容:ファッション

対象:高校生

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

16 「関西学院世界市民明石塾」(2023/8/2/計 1 回)

主催:関西学院大学

内容:パーム油

対象:高校生

派遣者:伊藤容子

実施形態:対面

20 「職員研修」(2023/8/7/計 1 回)

主催:天理市立福住小中学校

内容:様々な視点を育むためのアクティビティ

対象:教員・教育関係者

派遣者:佐藤友紀

実施形態:対面

17 「教員向けアンコンシャス・バイアス研修」(2023/8/21/計 1 回)

主催:東京ウィメンズプラザ

内容:ジェンダー

対象:教員・教育関係者

派遣者:中村絵乃、中村健、進藤夏葉

実施形態:対面

18 「いわて国際理解教育研究会」(2023/8/26/計 3 回)

主催:いわて国際理解教育研究会

内容:豊かさの開発; ファッション; SDGs アクティビティ集

対象:一般・不特定の市民

派遣者:八木亜紀子

実施形態:対面

19 「CLUB GEORDIE 内部開発事業」(2023/8/31/計 1 回)

主催:国際交流・国際協力支援団体 CLUB GEORDIE

内容:18 歳成人

対象:大学生  
派遣者:伊藤容子  
実施形態:オンライン

21 「異文化を理解する、異文化共存の根本的なアイデアを学ぶ」(2023/9/9/計1回)  
主催:ノートルダム女学院高校  
内容:100人村  
対象:高校生  
派遣者:佐藤友紀  
実施形態:対面

22 「SDGs実践講座第2回「世界がもし100人の村だったら」から考えるSDGs(仮)」(2023/9/29/計1回)  
主催:東洋大学  
内容:100人村  
対象:大学生  
派遣者:八木亜紀子  
実施形態:オンライン

23 「龍谷大学「国際NGO論」」(2023/10/4/計1回)  
主催:(特活)関西NGO協議会  
内容:スマホ  
対象:大学生  
派遣者:佐藤友紀  
実施形態:対面

24 「三輪田学園教育サロン」(2023/10/7/計1回)  
主催:三輪田学園中学校・高等学校  
内容:ジェンダー  
対象:保護者  
派遣者:中村絵乃  
実施形態:対面

25 「地理総合オンラインセミナー」(2023/10/16/計1回)  
主催:地理教育フォーラム  
内容:ファッション  
対象:教員・教育関係者  
派遣者:八木亜紀子、松川清美(事業担当)

実施形態:オンライン

26 「杉村ゼミナール」(2023/10/16/計1回)  
主催:上智大学 短期大学部  
内容:スマホ  
対象:大学生  
派遣者:伊藤容子  
実施形態:対面

27 「日本YMCAスタッフ研修ステップII講義「SDGsワークショップ」」(2023/10/31/計1回)  
主催:日本YMCA同盟  
内容:SDGs学習  
対象:NGO・団体職員  
派遣者:伊藤容子  
実施形態:対面

28 「人権研修会」(2023/11/13,14/計3回)  
主催:東京都台東区総務部人権・多様性推進課  
内容:100人村  
対象:一般・不特定の市民、小学生  
派遣者:中村絵乃、中村健、進藤夏葉、松川清美  
実施形態:対面

29 「J-CEFスタディスタジオ」(2023/11/29/計1回)  
主催:日本シティズンシップ教育フォーラム  
内容:成人学習・教育  
対象:一般・不特定の市民  
派遣者:近藤牧子(副代表理事)  
実施形態:オンライン

30 「中堅の教員向けの研修」(2023/11/30/計1回)  
主催:足立区教育委員会  
内容:ジェンダー  
対象:教員・教育関係者  
派遣者:中村絵乃、中村健、進藤夏葉  
実施形態:対面

31 「令和5年度 第14回高校生国際交流事業各種競技大会優勝者交流会」(2024/1/6/計1回)

主催:公益財団法人全国商業高等学校協会

内容:貿易ゲーム

対象:高校生

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

32 「SDGsプログラム」(2024/1/29/計1回)

主催:世田谷区立玉川中学校

内容:100人村

対象:中学生

派遣者:伊藤容子、中村健、進藤夏葉

実施形態:対面

33 「グローバルワークショップ」(2024/1/26/計2回)

主催:二松学舎大学附属柏中学校

内容:パーム油

対象:中学生

派遣者:中村絵乃、中村健、進藤夏葉

実施形態:対面

34 「対立から学ぶワークショップ」(2024/2/3/計2回)

主催:IVY

内容:対立から学ぶ

対象:一般・不特定の市民、小学生

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

35 「平和教育指導者養成講座」(2024/3/9-10/計4回)

主催:うなあ沖縄

内容:ALE、対立から学ぶ、ジェンダー

対象:教員・教育関係者

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

36 「共に生きる」(2023/11/10,12/4,1/22,2/9,3/11/計5回)

主催:フリースペースえん

内容:桃太郎のはなし、アフリカを学ぼう、パレスチナとイスラエル、など

対象:小学生、一般

派遣者:中村絵乃、中村健、進藤夏葉、松川清美、えんボラティアの皆さん

実施形態:対面

37 「展示を使ったワークショップ」(2023/4~2024/4/計28回)

主催:聖心女子大学

内容:ジェンダー、難民、気候変動、平和など

対象:大学生、高校生

派遣者:岩岡由季子、伊藤容子、中村絵乃、中村健、進藤夏葉

実施形態:対面

38 「市民活動論」(2023/4~9/計14回)

主催:早稲田大学

内容:市民活動論

対象:大学生

派遣者:中村絵乃

実施形態:対面

39 「多文化コミュニケーションデザイン」(2023/9~2024/1/計15回)

主催:東京女子大学

内容:多文化コミュニケーション

対象:大学生

派遣者:中村絵乃、中村健

実施形態:対面

以上